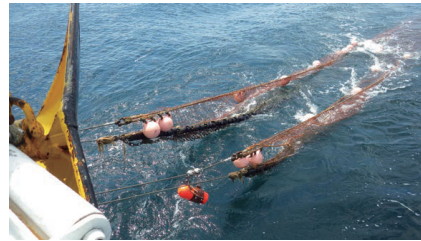


◎主な研究成果

◆陸奥湾マダラ来遊資源量の予測

【目的】陸奥湾のマダラ来遊資源量の予測手法を開発する。
 【結果】稚魚発生量調査と漁獲物の年齢調査による予測手法を開発した。
 【今後】予測結果を陸奥湾漁業者に情報提供し、活用してもらう。



試験船による稚魚発生量調査と年齢査定用の耳石断面

◆必要なホタテガイ稚貝の確保技術

【目的】陸奥湾において漁業者が天然採苗に必要なホタテガイ稚貝を確保する。
 【結果】天然採苗予報調査を行い、採苗に必要な情報をリアルタイムで漁業者に提供した。
 【今後】海洋環境の変化に対応した採苗指導を行う。



試験採苗器に付着したホタテガイ稚貝

◆ホタテガイの貝毒の影響低減

【目的】安価で簡便な下痢性貝毒の分析方法を開発する。
 【結果】国内で検出される下痢性貝毒成分を現行の使用機器 (LC/MS/MS) より安価なUHPLCで簡便に分析する方法を開発した。本分析法は2021年に特許を取得した。
 【今後】検査法として妥当性と実用性を評価する。



貝毒分析用UHPLC

◆マツカワの養殖技術

【目的】マツカワの養殖技術を開発する。
 【結果】種苗を安定的に量産できる技術、効率的に養殖できる技術を確立した。
 【今後】種苗生産技術の移転、養殖技術の普及を目指す。



マツカワ親魚



マツカワ稚魚

◎その他の試験・研究・調査

- ◆マグロ、サメなど広域回遊する資源の評価
- ◆ウスメバル、ハタハタ、ヤリイカなどの漁況予測
- ◆マコガレイ、ウスメバルの種苗生産
- ◆大型クラゲ等の出現状況調査

- ◆水温や塩分などの海洋観測調査
- ◆貝毒プランクトンのモニタリング
- ◆陸奥湾の環境保全調査